茅ヶ崎市立病院内科専門研修
プログラムA

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

茅ヶ崎市立病院

目次

１　内科専門研修プログラム・・・・・・P. 1
２　専門研修プログラム管理委員会・・・P. 22
３　専門研修指導医一覧・・・・・・・・・P. 23
４　専門研修施設群・・・・・・・・・・・P. 24

１　内科専門研修プログラム

１）　理念・使命・特性

理念【整備基準１】

（１）本プログラムは神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院である茅ヶ崎市立病院を基幹施設として、神奈川県湘南東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで連携をとりながら内科専門研修を経て神奈川県の医療事情を理解し、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練され、基本的臨床能力獲得後は必要に応じた総合力のある内科専門医として神奈川県全域を支える内科専門医の育成を行う。

（２）初期臨床研修を修了した内科専攻医は、本プログラム専門研修施設群での３年間（基幹施設２年間＋連携・特別連携施設１年間）に、豊富な臨床経験を持つ指導医の適切な指導の下で、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を通じて、標準的かつ全人的な内科的医療の実践に必要な知識と技能とを修得する。

（３）内科領域全般の診療能力とは、臓器別の内科系 subspecialty 分野の専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力である。また、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養を修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践する先導者の持つ能力である。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮する経験とが加わることに特徴がある。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を涵養することを可能とする。

使命【整備基準2】

（１）神奈川県湘南東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本を支える内科専門医として、１）高い倫理観を持ち、２）最新の標準的医療を実践し、３）安全な医療を心がけ、４）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を提供し、臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供すると同時にチーム医療を円滑に運営できる研修を行う。

（２）本プログラムを修了し内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医は常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、標準的な医療を安全に提供し、疾病の予防、早期発見、早期治療に努め、自らの診療能力をより高めることを通じて内科医療全体の水準をも高めて、地域住民、日本国民を生涯にわたって最善の医療を提供してサポートできる研修を行う。

（３）疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて地域住民の健康に積極的に貢献できる研修を行う。

（４）将来の医療の発展のためにリサーチマインドを持ち臨床研究、基礎研究を実際に行う契機となる研修を行う。

特性

（１）本プログラムは、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院である茅ヶ崎市立病院を基幹施設として、神奈川県湘南東部医療圏及び近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設

とで内科専門研修を経て超高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な医療も行えるように訓練される。研修期間は基幹施設 2 年間＋連携施設・特別連携施設 1 年間の 3 年間である。

（2）茅ヶ崎市立病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。そして、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもって目標への到達とする。

（3）基幹施設である茅ヶ崎市立病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

（4）基幹施設である茅ヶ崎市立病院での 2 年間（専攻医 2 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群（資料 2 参照）のうち、少なくとも通算で 45 疾患群、120 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できる。そして、専攻医 2 年修了時点で、指導医による形成的な指導を通じて、内科専門医ボードによる評価に合格できる 29 症例の病歴要約を作成できる（別表 1 各年次到達目標 P20 参照)。

（5）茅ヶ崎市立病院内科研修施設群の各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験するために、専門研修 3 年目の 1 年間、立場や地域における役割の異なる医療機関で研修を行うことによって、内科専門医に求められる役割を実践する。

（6）基幹施設である茅ヶ崎市立病院での 2 年間と専門研修施設群での 1 年間（専攻医 3 年修了時）で、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群のうち、少なくとも通算で 56 疾患群、160 症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録できる。可能な限り、「研修手帳（疾患群項目表)」に定められた 70 疾患群、200 症例以上の経験を目標とする（別表 1 各年次到達目標 P20 参照)。

専門研修後の成果【整備基準 3】

内科専門医の使命は、a）高い倫理観を持ち、b）最新の標準的医療を実践し、c）安全な医療を心がけ、d）プロフェッショナリズムに基づく患者中心の医療を展開することである。

内科専門医のかかわる場は多岐にわたるが、それぞれの場に応じて、

① 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）
② 内科系救急医療の専門医
③ 病院での総合内科（generality）の専門医
④ 総合内科的視点を持った subspecialist

に合致した役割を果たし、地域住民、国民の信頼を獲得する。このことはそれぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる内科専門医像は単一でなく、その環境に応じて役割を果たすことができる、必要に応じた可塑性のある幅広い内科専門医を多く輩出することにある。

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群での研修修了後はその成果として、内科医としてのプロフェ

ッショナリズムの涵養と general なマインドを持ち、それぞれのキャリア形成やライフステージによって、これらいずれかの形態に合致することもあれば、同時に兼ねることも可能な人材を育成する。そして、神奈川県湘南東部医療圏に限定せず、超高齢社会を迎えた日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得していることを要する。また、希望者は subspecialty 領域専門医の研修や高度・先進的医療、大学院などでの研究を開始する準備を整えうる経験をできることも、本施設群での研修が果たすべき成果である。

２）募集専攻医数【整備基準27】

下記1)～8)により、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムで募集可能な内科専攻医数は1学年7名とする。

(1) 茅ヶ崎市立病院内科後期研修医は現在3学年合わせて11名で1学年3-5名の実績がある。
(2) 茅ヶ崎市管轄公立病院として雇用人員数に一定の制限があるので、募集定員の大幅増は現実性に乏しい。
(3) 茅ヶ崎市立病院の各内科subspecialty診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を数名の範囲で調整することがある。内科専門研修開始時に将来のsubspecialty領域をある程度決めておくことを検討してことが望ましい。
(4)剖検体数は、2016年度13体、 2017年度9体、2018年度14体、2019年度10体、2020年は10体、2021年度は8体、2022年度は12体、2023年は9体、2024年6体、2025年13体である。

表1。茅ヶ崎市立病院診療科別診療実績

2025年度実績	入院患者実数（人/年）	外来延患者数（人/年）
総合内科	0	6,975
消化器内科	2,597	23,582
循環器内科	652	12,169
代謝内分泌内科	415	14,737
腎臓内科	381	6,396
呼吸器内科	791	14,193
脳神経内科	148	6,207
リウマチ膠原病内科	180	9,829
合計	5,164	94,088

(5) 神経、血液、膠原病（リウマチ）領域の入院患者は少なめだが、外来患者診療を含め、1学年5名に対し十分な症例を経験可能である。必要により短期間連携病院の横浜市立大学附属病院・横浜市立大学市民総合医療センターでの研修を行う。地域医療に関しては必要により短期間湘南中央病院で研修を行う。
(6) 10領域の専門医が少なくとも1名以上在籍している（P23別表2参照）。
(7) 1学年7名までの専攻医であれば、専攻医2年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定めら

れた45疾患群、120症例以上の診療経験と29病歴要約の作成は達成可能である。
(8) 専攻医3年目に研修する連携施設・特別連携施設には、高次機能・専門病院3施設、地域基幹病院3施設及び地域医療密着型病院1施設の計7施設あり、専攻医のさまざま希望・将来像に対応可能である。
(9)専攻医 3 年修了時に「研修手帳（疾患群項目表）」に定められた少なくとも 56 疾患群、160 症例以上の診療経験は達成可能である。

３）専門知識・専門技能とは
(1) 専門知識【整備基準 4】[資料 1「内科研修カリキュラム項目表」参照]
専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病及び類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成される。
「内科研修カリキュラム項目表」に記載されている、これらの分野における「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療」、「疾患」などを目標（到達レベル）とする。
(2) 専門技能【整備基準 5】[資料 3「技術・技能評価手帳」参照]
内科領域の「技能」は、幅広い疾患を網羅した知識と経験に裏付けされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに科学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指す。さらに全人的に患者・家族と関わっていくことや他の subspecialty 専門医へのコンサルテーション能力が加わる。これらは、特定の手技の修得や経験数によって表現することはできない。

４）専門知識・専門技能の習得計画
① 到達目標【整備基準8～10】(別表1 各年次到達目標」P20参照)
主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70 疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とする
内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がある。そこで、専門研修（専攻医）年限ごとに内科専門医に求められる知識・技能・態度の修練プロセスは以下のように設定する。

○専門研修（専攻医）１年:
・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、少なくとも20疾患群、60症例以上を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。以下、全ての専攻医の登録状況については担当指導医の評価と承認が行われる。
・専門研修修了に必要な病歴要約を10症例以上記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。
・技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を指導医、subspecialty上級医とともに行うことができる。
・態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty上級医及びメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行う。

○専門研修（専攻医）２年:
・症例：「研修手帳（疾患群項目表）」に定める70疾患群のうち、通算で少なくとも45疾患群、

120症例以上の経験をし、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。
・ 専門研修修了に必要な病歴要約をすべて記載して日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を終了する。
・ 技能：研修中の疾患群について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を指導医、subspecialty上級医の監督下で行うことができる。
・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty上級医及びメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）1 年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。

○専門研修（専攻医）３年:
・ 症例：主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全70 疾患群を経験し、200症例以上経験することを目標とする。修了認定には、主担当医として通算で最低56疾患群以上の経験と計160 症例以上（外来症例は1 割まで含むことができる）を経験し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録する。
・ 専攻医として適切な経験と知識の修得ができることを指導医が確認する。
・ 既に専門研修2年次までに登録を終えた病歴要約は、プログラム外の査読委員による評価を受け、形成的により良いものへ改訂する。但し、改訂に値しない内容の場合は、その年度の受理（アクセプト）が一切認められないことに留意する。
・ 技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、及び治療方針決定を自立して行うことができる。
・ 態度：専攻医自身の自己評価と指導医、subspecialty上級医及びメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行う。専門研修（専攻医）2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックする。
　また、内科専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図る。

　専門研修修了には、すべての病歴要約29症例の受理と、少なくとも70 疾患群中の56 疾患群以上で計160 症例以上の経験を必要とする。日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）における研修ログへの登録と指導医の評価と承認とによって目標を達成する。
　茅ヶ崎市立病院内科施設群専門研修では、「研修カリキュラム項目表」の知識、技術・技能修得は必要不可欠なものであり、修得するまでの最短期間は３年間（基幹施設2年間＋連携・特別連携施設1年間）とするが、修得が不十分な場合、修得できるまで研修期間を１年単位で延長する。一方でカリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的にsubspecialty領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修を開始させるため内科専門研修開始時に将来のsubspecialty領域をある程度決めておくことを検討しておくことが望まれる。
　※Subspecialty専門研修との連動研修（並行研修）についての注意点
内科専門研修とSubspecialty領域のそれとを厳密に区別することは実際的ではないと考えられる。内科専門研修中でも、Subspecialty専門研修施設でSubspecialty指導医の指導を受け、Subspecialty専門医の研修と同等レベルのSubspecialty領域の症例を経験する場合には、その研修内容をSubspecialty専門研修として認める（連動研修（並行研修））ことができる（図1）。ただ

し、その場合には内科専門研修を確実に修了できることを前提としていることに格段の注意が必要である。
特に、Subspecialty専門医をできるだけ早期に取得することを希望しており、かつ内科専門研修に余裕がある専攻医であれば、連動研修（並行研修）が可能である。内科専門研修修了要件の達成見込みに応じて、内科専門研修3年間のうち1年間または 2年間（合計で：開始時期は内科専門研修の修了見込みによる。Subspecialtyの研修に比重をおく期間の開始時期・終了時期、継続性は問わない）（サブスペシャルティ重点研修タイプ）をSubspecialty専門研修とみなすことは可能である。
もし、3年間の内科専門研修で修了要件が満たせない場合には、4年間で終了要件を満たせば内科専門研修の修了認定を行う。同時に、各Subspecialty研修の修了要件を満たす場合には、内科専門医試験に合格することにより、同じ年度に各Subspecialty専門医試験の受験が可能になる（内科・サブスペシャルティ混合タイプ）。
なお、各Subspecialty研修の登録開始時期などは日本専門医機構が決定する予定である。

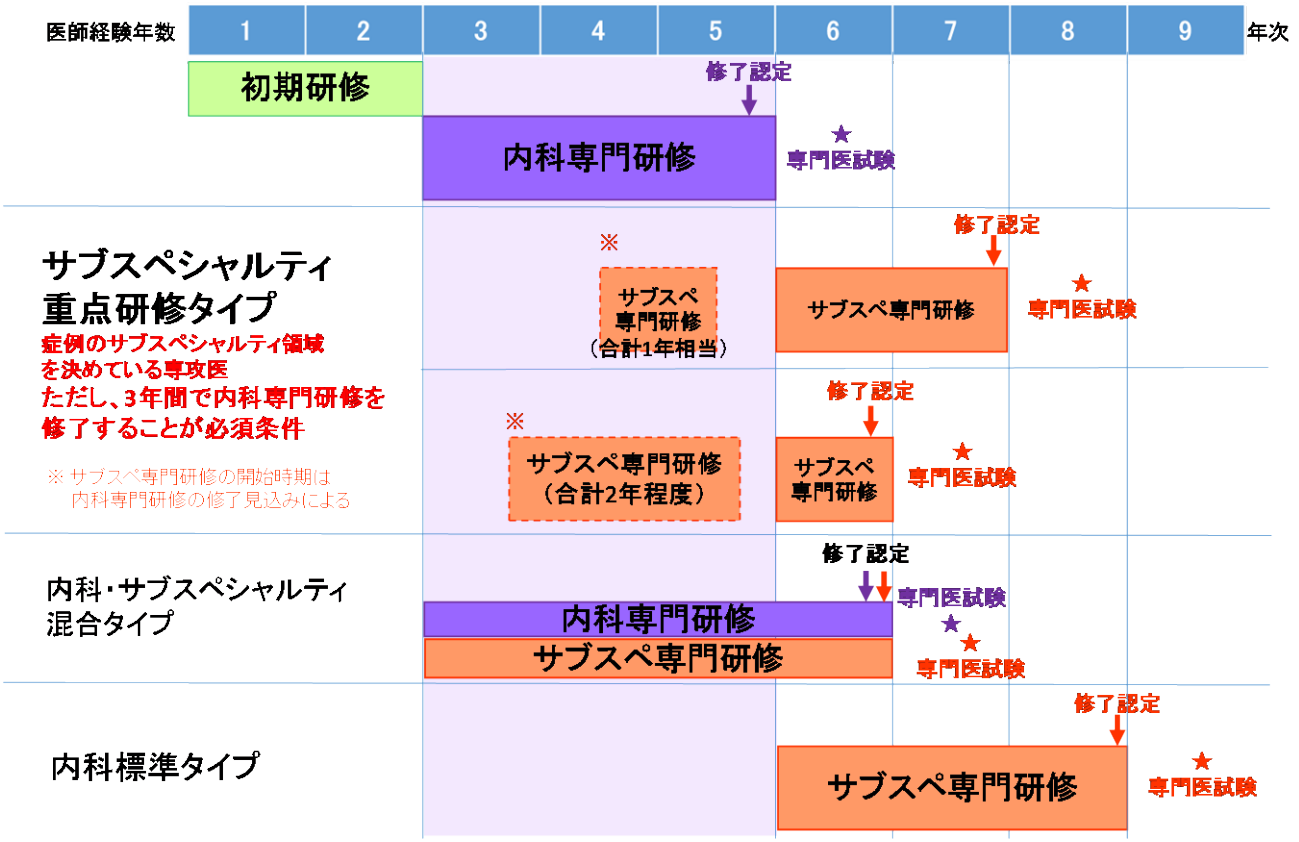


図1。　内科専門研修とサブスペ専門研修の連動研修（並行研修）（概念図）

② 臨床現場での学習【整備基準13】

内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得される。内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験する（下記１）～5）参照）。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得する。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載する。また、自らが経験することのできなかった症例については、カンファレンスや自己学習によって知識を補足する。これらを通じて、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにする。

1）内科専攻医は、担当指導医又はsubspecialtyの上級医の指導の下、主担当医として入院症例と外来症例の診療を通じて、内科専門医を目指して常に研鑽する。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践する。

2）定期的（毎週1回）に開催する各診療科あるいは内科合同カンファレンスを通じて、担当症例の病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得る。また、プレゼンターとして情報検索及びコミュニケーション能力を高める。

3）総合内科外来（初診を含む）とsubspecialty診療科外来（初診を含む）を少なくても週1回、1年以上担当医として経験を積む。

4）救急部の内科外来で内科領域の救急診療の経験を積む。

5）当直医として病棟急変などの経験を積む。

6）必要に応じて、subspecialty診療科検査を担当する。

7）日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために、提示されている症例数（P.20別表1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく、研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行います。

③　臨床現場を離れた学習【整備基準14】

1）内科領域の救急対応、2）最新のエビデンスや病態理解・治療法の理解、3）標準的な医療安全や感染対策に関する事項、4）医療倫理、医療安全、感染防御、臨床研究や利益相反に関する事項、5）専攻医の指導・評価方法に関する事項、などについて、以下の方法で研鑽する。

1）定期的（毎週1回程度）に開催する内科全体の死亡退院カンファレンス・CPAカンファレンス・抄読会及び各診療科での抄読会

2）医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会（基幹施設2019年度実績5回）

※　内科専攻医は年に2 回以上受講する。

3）CPC（基幹施設2019年度実績5回）

4）研修施設群合同カンファレンス（2023年度：年2回開催予定）

5）地域参加型のカンファレンス（基幹施設：救急医療合同カンファレンス（コロナ感染症のため院外からの参加はなかったが救急カンファランスは3回開催専攻医も参加した）、茅ヶ崎内科医会合同カンファランス（内科医会との合同カンファランスはコロナ感染症蔓延のため中止；2021年度実績0回）

6）JMECC受講

茅ヶ崎市立病院専攻医は必ず専門研修１年又は２年までに茅ヶ崎市立病院、横浜市立大学あるいは藤沢市民病院で開催されるJMECCに1回受講する。

7）内科系学術集会（下記「７.学術活動に関する研修計画」参照）

8）各種指導医講習会/JMECC指導者講習会

など

④　自己学習【整備基準15】

「研修カリキュラム項目表」では、知識に関する到達レベルを A（病態の理解と合わせて十分に深く知っている）と B（概念を理解し、意味を説明できる）に分類、 技術・技能に関する到達レ

ベルをA（複数回の経験を経て、安全に実施できる、または判定できる）、 B（経験は少数例だが、指導者の立ち会いのもとで安全に実施できる、また は判定できる）、 C（経験はないが、自己学習で内容と判断根拠を理解できる）に分類、さらに、 症例に関する到達レベルを A（主担当医として自ら経験した)、B（間接的に経験している（実症例をチームとして経験した、または症例検討会を通して経験した）、C（レクチャー、セミナー、学会が公認するセルフスタディやコンピューターシミュレーションで学習した）と分類している。（資料1「研修カリキュラム項目表」参照）

自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、以下の方法で学習する。

１）内科系学会が行っているセミナーのDVD やオンデマンドの配信

２）日本内科学会雑誌にあるMCQ

３）日本内科学会が実施しているセルフトレーニング問題

など

⑤　研修実績及び評価を記録し、蓄積するシステム【整備基準41】

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、以下をweb ベースで日時を含めて記録する。

・専攻医は全70疾患群の経験と200症例以上を主担当医として経験することを目標に、通算で最低56疾患群以上160症例の研修内容を登録する。指導医はその内容を評価し、合格基準に達したと判断した場合に承認を行う。

・専攻医による逆評価を入力して記録する。

・全29症例の病歴要約を指導医が校閲後に登録し、専門研修施設群とは別の日本内科学会病歴要約評価ボード（J-OSLER）によるピアレビューを受け、指摘事項に基づいた改訂を受理（アクセプト）されるまでシステム上で行う。

・専攻医は学会発表や論文発表の記録をシステムに登録する。

・専攻医は各専門研修プログラムで出席を求められる講習会等（例：CPC、地域連携カンファレンス、医療倫理・医療安全・感染対策講習会）の出席をシステム上に登録する。

５）プログラム全体と各施設におけるカンファレンス【整備基準13、14】

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群でのカンファレンスは、施設ごとに行われているが、一例として週間予定に記載されている。P41参照）。

プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センターが把握し、定期的にE-mailなどで専攻医に周知し、出席を促す

６）リサーチマインドの養成計画【整備基準6、12、30】

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢である。この能力は自己研鑽を生涯にわたって行う際に不可欠となる。

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても、

１）患者から学ぶという姿勢を基本とする。

２）科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）。

３）最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）。

４）診断や治療の evidence の構築・病態の理解につながる研究を行う。

５）症例報告を通じて深い洞察力を磨く。
といった基本的なリサーチマインド及び学問的姿勢を涵養する。

併せて、
１）初期研修医あるいは医学部学生の指導を行う。
２）後輩専攻医の指導を行う。
３）メディカルスタッフを尊重し、指導を行う。
を通じて、内科専攻医としての教育活動を行う。

７）学術活動に関する研修計画【整備基準12】

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群は基幹病院、連携病院、特別連携病院のいずれにおいても、
１）内科系の学術集会や企画に年 2 回以上参加する（必須）。
※　日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会、CPC 及び内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。
２）経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。
３）臨床的疑問を抽出して臨床研究を行う。
４）内科学に通じる基礎研究を行う。
を通じて、科学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにする。
内科専攻医は学会発表あるいは論文発表は筆頭者２件以上行う。
なお、専攻医が、社会人大学院などを希望する場合でも、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨する。

８）　コアコンピテンシーの研修計画【整備基準7】

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群は基幹施設、連携施設、特別連携施設のいずれにおいても指導医、subspecialty 上級医とともに下記１）～10）について積極的に研鑽する機会を与える。
プログラム全体と各施設のカンファレンスについては、基幹施設である茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センターが把握し、定期的に E-mail などで専攻医に周知し、出席を促す。

内科専門医として高い倫理観と社会性を獲得する。
１）患者とのコミュニケーション能力
２）患者中心の医療の実践
３）患者から学ぶ姿勢
４）自己省察の姿勢
５）医の倫理への配慮
６）医療安全への配慮
７）公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）
８）地域医療保健活動への参画
９）他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
10）後輩医師への指導
※　教える事が学ぶ事につながる経験を通し、先輩からだけではなく後輩、医療関係者からも常に学ぶ姿勢を身につける。

９）**地域医療における施設群の役割**【整備基準11、28】

内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県湘南東部医療圏、近隣医療圏から構成されている。

茅ヶ崎市立病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であるとともに、地域の病診・病病連携の中核である。一方で、地域に根ざす第一線の病院でもあり、コモンディジーズの経験はもちろん、超高齢社会を反映し複数の病態を持った患者の診療経験もでき、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。

連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療及び患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である横浜市立大学附属病院、横浜市立大学市総合医療センター、神奈川県立循環器・呼吸器病センター、国立病院機構相模原病院、 地域基幹病院である横浜医療センター、藤沢市民病院、大和市立病院、平塚市民病院、横須賀市民病院、町田市民病院、 横浜労災病院、 横浜南共済病院、 済生会横浜市南部病院、 大森赤十字病院、藤沢湘南台病院、横浜栄共済病院で構成している。

高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。

地域基幹病院では、茅ヶ崎市立病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群は神奈川県湘南東部医療圏及び近隣の医療圏から構成されている。専門研修施設群(表 2　P19)は、いずれも病院から電車を利用して、1 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は少ない。

１０）**地域医療に関する研修計画**【整備基準28、29】

茅ヶ崎市立病院内科施設群専門研修では、症例をある時点で経験するということだけではなく、主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得を目標としている。

茅ヶ崎市立病院内科施設群専門研修では、主担当医として診療・経験する患者を通じて、高次病院や地域病院との病病連携や診療所（在宅訪問診療施設などを含む）との病診連携も経験できる。

日本のいずれの医療機関でも不安なく内科診療にあたる実力を獲得するために、提示されている症例数（P. 20 別表 1「各年次到達目標」参照）に拘泥することなく、研修する医療機関での診療と自己研鑽とを常に行う。

１１）内科専攻医研修（モデル）【整備基準16】

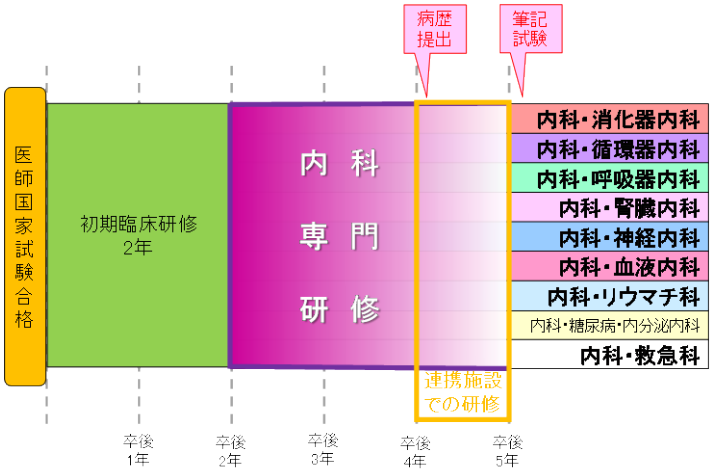


図 2。茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム（概念図）

基幹施設である茅ヶ崎市立病院内科で、専門研修（専攻医）1年目、2年目に2年間の専門研修を行う。

専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度及びメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）などを基に、専門研修（専攻医）3 年目の研修施設を調整し決定する。病歴提出を終える専門研修（専攻医）3 年目の 1 年間、連携施設、特別連携施設で研修をする（図 1)。

なお、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修も可能である。（連動研修（並行研修）概念図参照)。特に、Subspecialty 専門医をできるだけ早期に取得することを希望しており、かつ内科専門研修に余裕がある専攻医であれば､連動研修(並行研修)が可能である｡(内科専門研修開始時に将来の Subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくことが望まれる。

１２）専攻医の評価時期と方法【整備基準17、19-22】

（１）茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センター（2018 年 4 月設置）の役割

・茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を行う。
・茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム開始時に、各専攻医が初期研修期間などで経験した疾患について日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を基にカテゴリー別の充足状況を確認する。
・3 か月ごとに J-OSLER にて専攻医の研修実績と到達度を適宜追跡し、専攻医による J-OSLER への記入を促す。また、各カテゴリー内の研修実績と到達度が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
・6 か月ごとに病歴要約作成状況を適宜追跡し、専攻医による病歴要約の作成を促す。また、各カテゴリー内の病歴要約が充足していない場合は該当疾患の診療経験を促す。
・6 か月ごとにプログラムに定められている所定の学術活動の記録と各種講習会出席を追跡する。
・年に複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に)、専攻医自身の自己評価を行う。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、1 か月以内に担当指導医によって専攻医に形成的にフィードバックを行って、改善を促す。

・臨床研修センターは、メディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）を毎年複数回（8 月と 2 月、必要に応じて臨時に）行う。担当指導医、subspecialty 上級医に加えて、看護師長、看護師、臨床検査・放射線技師・臨床工学技士、事務員などから、接点の多い職員 5 人を指名し、評価する。評価表では社会人としての適性、医師としての適正、コミュニケーション、チーム医療の一員としての適性を多職種が評価する。評価は無記名方式で、臨床研修センター（J-OSLER）も又は統括責任者が各研修施設の研修委員会に委託して 5 名以上の複数職種に回答を依頼し、その回答は担当指導医が取りまとめ、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する（他職種はシステムにアクセスしない）。その結果は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を通じて集計され、担当指導医から形成的にフィードバックを行う。
・日本専門医機構内科領域研修委員会によるサイトビジット（施設実地調査）に対応する。

（2）専攻医と担当指導医の役割
・専攻医 1 人に 1 人の担当指導医（メンター）が茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会により決定される。
・専攻医は web にて日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にその研修内容を登録し、担当指導医はその履修状況の確認をシステム上で行ってフィードバックの後にシステム上で承認をする。この作業は日常臨床業務での経験に応じて順次行う。
・専攻医は、1 年目専門研修修了時に研修カリキュラムに定める 70 疾患群のうち 20 疾患群、60 症例以上の経験と登録を行うようにする。2 年目専門研修修了 70 疾患群のうち 45 疾患群、120 症例以上の経験と登録を行うようにする。3 年目専門研修修了時には 70 疾患群のうち 56 疾患群、160 症例以上の経験の登録を終了する。それぞれの年次で登録された内容は都度、担当指導医が評価・承認する。
・担当指導医は専攻医と十分なコミュニケーションを取り、J-OSLER での専攻医による症例登録の評価や臨床研修管理センターからの報告などにより研修の進捗状況を把握する。専攻医は subspecialty の上級医と面談し、専攻医が経験すべき症例について報告・相談する。担当指導医と subspecialty の上級医は、専攻医が充足していないカテゴリー内の疾患を可能な範囲で経験できるよう、主担当医の割り振りを調整する。
・担当指導医は subspecialty 上級医と協議し、知識、技能の評価を行う。
・専攻医は、専門研修（専攻医）2 年修了時までに 29 症例の病歴要約を順次作成し、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。担当指導医は専攻医が合計 29 症例の病歴要約を作成することを促進し、内科専門医ボードによる査読・評価で受理（アクセプト）されるように病歴要約について確認し、形成的な指導を行う必要がある。専攻医は、内科専門医ボードのピアレビュー方式の査読・形成的評価に基づき、専門研修（専攻医）3 年次修了までにすべての病歴要約が受理（アクセプト）されるように改訂する。これによって病歴記載能力を形成的に深化させる。

（3）評価の責任者
年度ごとに担当指導医が評価を行い、基幹施設あるいは連携施設の内科研修委員会で検討する。その結果を年度ごとに茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会で検討し、統括責任者が承認する。

（４）修了判定基準【整備基準 53】

１）担当指導医は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて研修内容を評価し、以下ⅰ）～ⅵ）の修了を確認する。

ⅰ）主担当医として「研修手帳（疾患群項目表）」に定める全 70 疾患群を経験し、計 200 症例以上（外来症例は 20 症例まで含むことができる）を経験することを目標とする。その研修内容を日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）に登録する。修了認定には、主担当医として通算で最低 56 疾患群以上の経験と計 160 症例以上の症例（外来症例は登録症例の 1 割まで含むことができる）を経験し、登録済みであること（別表 1「茅ヶ崎市立病院 疾患群 症例 病歴要約 到達目標」参照）。

ⅱ）29 病歴要約の内科専門医ボードによる査読・形成的評価を経ての受理（アクセプト）されていること

ⅲ）所定の 2 編の学会発表抄録またはプログラムのコピーがあること）または論文発表（論文の別刷りまたはコピーがあること）

また、内科系の学術集会や企画に参加すること

ⅳ）JMECC 受講

ⅴ）プログラムで定める講習会受講

医療倫理・医療安全・感染制御に関する講習会：任意の異なる組み合わせで年間 2 回以上の受講すること（受講証明書または自筆のメモ書きがある配布資料などがあること）。

ⅵ）日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いてメディカルスタッフによる 360 度評価（内科専門研修評価）と指導医による内科専攻医評価を参照し、社会人である医師としての適性

２）茅ヶ崎市立病院内科専門医研修プログラム管理委員会は、当該専攻医が上記修了要件を充足していることを確認し、研修期間修了約 1 か月前に茅ヶ崎市立病院内科専門医研修プログラム管理委員会で合議のうえ統括責任者が修了判定を行い茅ヶ崎市立病院内科専門医研修プログラム修了証が授与される。

（５）プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

「専攻医研修実績記録フォーマット」、「指導医による指導とフィードバックの記録」及び「指導者研修計画（FD）の実施記録」は、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いる。

なお、「茅ヶ崎市立病院内科専攻医研修マニュアル」【整備基準 44】と「茅ヶ崎市立病院内科専門研修指導者マニュアル」【整備基準 45】と別に示す。

１３）茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会の運営計画【整備基準34、35、37-39】

（「茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理員会」P22参照）

① 茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムの管理運営体制の基準

１）内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。

内科専門研修プログラム管理委員会は、研修委員長（副院長）、統括責任者･プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）、事務局代表者、内科 subspecialty 分野の研修指導責任者（診療科科部長）、360 度評価として薬局長、看護部長、中央診療部長及び連携

施設担当委員で構成される。また、オブザーバーとして専攻医を委員会会議の一部に参加させる（茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理員会 P22 参照)。茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会の事務局を、茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センターにおく。

2）茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群は、基幹施設、連携施設ともに内科専門研修委員会を設置する。委員長 1 名（指導医）は、基幹施設との連携のもと、活動するとともに、専攻医に関する情報を定期的に共有するために、毎年 11 月、3 月に開催する茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会の委員として出席する。

基幹施設、連携施設ともに、毎年 11 月 30 日までに、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会に以下の報告を行う。

1) 前年度の診療実績

a)病院病床数、b)内科病床数、c)内科診療科数、d) 1 か月あたり内科外来患者数、e)1 か月あたり内科入院患者数、f)剖検数

2) 専門研修指導医数及び専攻医数

a)前年度の専攻医の指導実績､b)今年度の指導医数/総合内科専門医数､c)今年度の専攻医数、d)次年度の専攻医受け入れ可能人数。

3) 前年度の学術活動

a)学会発表、b)論文発表

4) 施設状況

a)施設区分、b)指導可能領域、c)内科カンファレンス、d)他科との合同カンファレンス、e)抄読会、f)机、g)図書館、h)文献検索システム、i)医療安全・感染対策・医療倫理に関する研修会、j)JMECC の開催。

5) subspecialty 領域の専門医数

日本消化器病学会消化器専門医数、日本循環器学会循環器専門医数、
日本内分泌学会専門医数、日本糖尿病学会専門医数、日本腎臓病学会専門医数、
日本呼吸器学会呼吸器専門医数、日本血液学会血液専門医数、
日本神経学会神経内科専門医数、日本アレルギー学会専門医（内科）数、
日本リウマチ学会専門医数、日本感染症学会専門医数、
日本救急医学会救急科専門医数、

１４）プログラムとしての指導者研修（FD）の計画【整備基準18、43】

指導法の標準化のため日本内科学会作製の冊子「指導の手引き」（仮称）を活用する。

厚生労働省や日本内科学会の指導医講習会の受講を推奨する。

指導者研修（FD）の実施記録として、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いる。

１５）専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）【整備基準40】

労働基準法や医療法を遵守することを原則とする。身分は」会計年度任用職員。

専門研修（専攻医）1 年目、2 年目は基幹施設である茅ヶ崎市立病院の就業環境に、専門研修（専攻医）3 年目は連携施設又は特別連携施設の就業環境に基づき、就業する（資料 4「茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群」参照)。

基幹施設である茅ヶ崎市立病院の整備状況：

・研修に必要な図書室とインターネット環境がある。
・茅ヶ崎市会計年度任用職員として労務環境が保障されている。
・メンタルストレスに適切に対処する部署（茅ヶ崎市職員課）がある。
・セクシュアル・ハラスメント苦情処理委員会が茅ヶ崎市役所に整備されている。ハラスメント対策委員会に拡大整備予定。
・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。
・敷地内に院内保育所があり、利用可能である。

専門研修施設群の各研修施設の状況については、「茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム A　専門研修施設群研修」を参照。

また、総括的評価を行う際、専攻医及び指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会に報告されるが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれ、適切に検討する。

１６）内科専門研修プログラムの改善方法【整備基準48-51】

① 専攻医による指導医及び研修プログラムに対する評価

日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて無記名式逆評価を行う。逆評価は年に複数回行う。また、年に複数の研修施設に在籍して研修を行う場合には、研修施設ごとに逆評価を行う。その集計結果は担当指導医、施設の研修委員会、及びプログラム管理委員会が閲覧する。また集計結果に基づき、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てる。

② 専攻医等からの評価（フィードバック）をシステム改善につなげるプロセス

専門研修施設の内科専門研修委員会、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会、及び日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて、専攻医の逆評価、専攻医の研修状況を把握する。把握した事項については、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会が以下に分類して対応を検討する。

１）即時改善を要する事項
２）年度内に改善を要する事項
３）数年をかけて改善を要する事項
４）内科領域全体で改善を要する事項
５）特に改善を要しない事項

なお、研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内で解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会を相談先とする。

・担当指導医、施設の内科研修委員会、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会、及び日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて専攻医の研修状況を定期的にモニターし、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムが円滑に進められているか否かを判断して茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムを評価する。
・担当指導医、各施設の内科研修委員会、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会、及び

日本専門医機構内科領域研修委員会は日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて担当指導医が専攻医の研修にどの程度関与しているかをモニターし、自律的な改善に役立てる。状況によって、日本専門医機構内科領域研修委員会の支援、指導を受け入れ、改善に役立てる。

③ 研修に対する監査（サイトビジット等）・調査への対応

茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センターと茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会は、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムに対する日本専門医機構内科領域研修委員会からのサイトビジットを受け入れ対応する。その評価を基に、必要に応じて茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムの改良を行う。

茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム更新の際には、サイトビジットによる評価の結果と改良の方策について日本専門医機構内科領域研修委員会に報告する。

１７）専攻医の募集及び採用の方法【整備基準52】

本プログラム管理委員会は、茅ヶ崎市立病院ホームページにおいて公表を行い、随時の病院見学を通じて内科専攻医を募集する。翌年度のプログラムへの応募者は、茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センターのホームページの茅ヶ崎市立病院医師募集要項（茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム：内科専攻医）に従って応募する。書類選考及び面接を行い、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会において協議の上で採否を決定し、本人に文書で通知する。ただし、正式な期日は日本専門医機構内科領域認定委員会の定めによる。

(問い合わせ先)茅ヶ崎市立病院臨床研修管理センター

E-mail: hosp_soumu@city.chigasaki.kanagawa.jp

HP: http://hosp.city.chigasaki.kanagawa.jp/

茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムを開始した専攻医は、遅滞なく日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）にて登録を行う。

１８）内科専門研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件【整備基準 33】

やむを得ない事情により他の内科専門研修プログラムの移動が必要になった場合には、適切に日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）を用いて茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムでの研修内容を遅滞なく登録し、担当指導医が認証する。これに基づき、茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会と移動後のプログラム管理委員会が、その継続的研修を相互に認証することにより、専攻医の継続的な研修を認める。他の内科専門研修プログラムから茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムへの移動の場合も同様である。

他の領域から茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラムに移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を始める場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験をしている場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらに茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム統括責任者が認めた場合に限り、日本内科学会専攻医登録評価システム（J-OSLER）への登録を認める。症例経験として適切か否かの最終判定は日本専門医機構内科領域研修委員会の決定による。

疾病あるいは妊娠・出産、産前後に伴う研修期間の休止については、プログラム修了要件を満たしていれば、休職期間が 6 か月以内であれば、研修期間を延長する必要はないものとする。これを超

える期間の休止の場合は、研修期間の延長が必要である。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1 日 7.75 時間、週 5 日を基本単位とする）を行なうことによって、研修実績に加算する。

留学期間は、原則として研修期間として認めない。

別表 1　　各年次到達目標

	内容	専攻医 3 年修了時 カリキュラムに示す疾患群	専攻医 3 年修了時 修了要件	専攻医 2 年修了時 経験目標	専攻医 1 年修了時 経験目標	※4 病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ（一般）	1	1※2	1		2
	総合内科Ⅱ（高齢者）	1	1※2	1		
	総合内科Ⅲ（腫瘍）	1	1※2	1		
	消化器	9	5 以上※1※2	5 以上※1		3※1
	循環器	10	5 以上※2	5 以上		3
	内分泌	4	2 以上※2	2 以上		3※5
	代謝	5	3 以上※2	3 以上		
	腎臓	7	4 以上※2	4 以上		2
	呼吸器	8	4 以上※2	4 以上		3
	血液	3	2 以上※2	2 以上		2
	神経	9	5 以上※2	5 以上		2
	アレルギー	2	1 以上※2	1 以上		1
	膠原病	2	1 以上※2	1 以上		1
	感染症	4	2 以上※2	2 以上		2
	救急	4	4※2	4		2
外科紹介症例						2
剖検症例						1
合計		70 疾患群	56 疾患群（任意選択含む）	45 疾患群（任意選択含む）	20 疾患群	29 症例（外来は最大 7）※3
症例数		200 以上（外来は最大 20）	160 以上※5（外来は最大 16）	120 以上	60 以上	

※1　消化器分野では「疾患群」の経験と「病歴要約」の提出のそれぞれにおいて、「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。
※2　修了要件に示した分野の合計は 41 疾患群だが、他に異なる 15 疾患群の経験を加えて、合計 56 疾患群以上の経験とする。
※3　外来症例による病歴要約の提出を 7 例まで認める。（全て異なる疾患群での提出が必要）
※4　「内分泌」と「代謝」からはそれぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例）「内分泌」2 例+「代謝」1 例、「内分泌」1 例+「代謝」2 例

※5　初期研修時の症例は、茅ヶ崎市立病院内科専門医研修プログラム管理委員会が内科専門研修に相当すると認める場合に 80 症例まで登録できる。病歴要約も同様に 14 症例まで登録できまる。

茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム管理委員会

（令和８年４月現在）

茅ヶ崎市立病院

栗山　仁	（プログラム管理委員長）
中戸川　知頼	（プログラム統括責任者、循環器分野責任者、救急分野責任者）
小島　敦	（事務局代表、臨床研修管理センター事務担当）
塚原　利典	（呼吸器・アレルギー分野責任者・感染分野責任者）
酒井　竜一郎	（神経・総合内科・老年分野責任者）
村田　依子	（消化器分野責任者）
宮下　大介	（代謝内分泌分野責任者）
増田　真一朗	（腎臓分野責任者）
須田　昭子	（リウマチ・膠原病分野責任者・血液分野責任者）
河野　心範	（中央診療部責任者）
端山　智	（薬局長）
山岡　澄代	（看護部長）

連携施設担当委員

横浜市立大学附属病院	前田　愼
横浜市立大学市民総合医療センター	平和　伸仁
地方独立行政法人神奈川県立病院機構	
神奈川県立循環器・呼吸器病センター	荻原　恵里
横浜医療センター	井畑　淳
独立行政法人国立病院機構相模原病院	森田　有紀子
藤沢市民病院	岩瀬　滋
大和市立病院	竹下　康代
横須賀市立市民病院	小松　和人
平塚市民病院	高木　俊介
町田市民病院	和泉　元喜

横浜労災病院	永瀬　肇
横浜南共済病院	小泉　晴美
大森赤十字病院	澁谷　研
済生会横浜市南部病院	杉森　一哉
藤沢湘南台病院	龍　信太郎
横浜栄共済病院	岩城　卓
横須賀市立総合医療センター	岩澤　孝昌
国際医療福祉大学熱海病院	山田　佳彦
国際医療福祉大学三田病院	馬場　靖子
国際医療福祉大学成田病院	村井　弘之
新百合ヶ丘総合病院	廣石　和正
さがみ林間病院	福田　直人
社会福祉法人親善福祉協会国際親善総合病院	清水　誠
医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院	小泉　一也
東京都立広尾病院	田島　真人

【別表２専門研修指導医一覧】

基幹施設　茅ヶ崎市立病院

栗山　仁
中戸川　知頼
酒井　竜一郎
塚原　利典
須田　昭子
増田　真一朗
村田　依子
宮下　大介
内田　苗利
佐藤　高光
後藤　駿吾
渡邉　俊幸
三橋　孝之
近藤　愛

連携施設
（各施設代表者のみ）

横浜市立大学附属病院
前田　愼
ほか

横浜市立大学附属
市民総合医療センター
平和　伸仁
ほか

神奈川県立循環器呼吸器病
センター
萩原　恵里
ほか

横浜医療センター
井畑　淳
ほか

藤沢市民病院
岩瀬　滋
ほか

大和市立病院
竹下　康代
ほか

横須賀市立市民病院
小松　和人
ほか

大森赤十字病院
澁谷　研
ほか

平塚市民病院
高木　俊介
ほか

独立行政法人国立病院機構
相模原病
森田　有紀子
ほか

町田市民病院
和泉　元喜
ほか

横浜労災病院
永瀬　肇
ほか

横浜南共済病院
小泉　晴美
ほか

済生会横浜市南部病院
杉森　一哉
ほか

藤沢湘南台病院
龍　信太郎
ほか

横浜栄共済病院
岩城　卓
ほか

横須賀市立総合医療センター
岩澤　孝昌
ほか

国際医療福祉大学熱海病院
山田　佳彦
ほか

国際医療福祉大学三田病院
馬場　靖子
ほか

国際医療福祉大学成田病院
村井　弘之
ほか

新百合ヶ丘総合病院
廣石　和正
ほか

さがみ林間病院
福田　直人
ほか

社会福祉法人親善福祉協会
国際親善総合病院
清水　誠
ほか

医療法人徳洲会
湘南鎌倉総合病院
小池　一也
ほか

東京都立広尾病院
田島　真人
ほか

（2026 年 4 月 1 日現在）

研修期間：3 年間（基幹施設 2 年間＋連携・特別連携施設 1 年間）

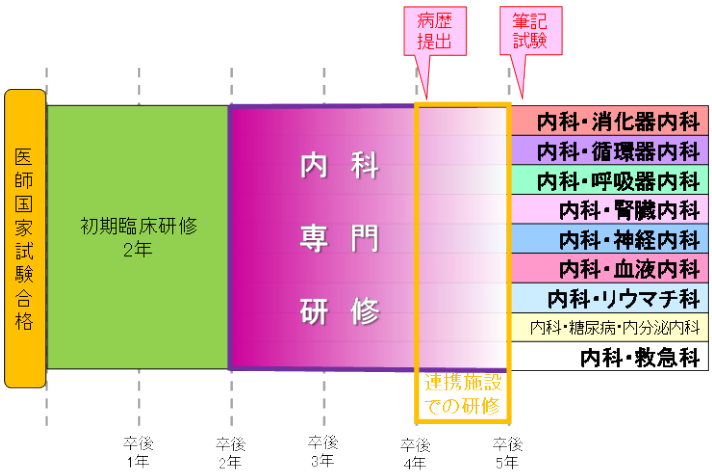


図 1。茅ヶ崎市立病院内科専門研修プログラム（概念図）

茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群研修施設

表 1　　（茅ヶ崎市立病院　令和 8 年 4 月現在、剖検数：令和 7 年度）

	病院	病床数	内科系病床数	内科系診療科数	内科指導医数	総合内科専門医数	内科剖検数
基幹施設	茅ヶ崎市立病院	401	151	8	18	15	13
連携施設	横浜大学附属病院	654	166	9	81	49	41
連携施設	横浜市立大学附属市民総合医療センター	676	184	10	40	23	10
連携施設	神奈川県立循環器呼吸器病センター	239	199	3	14	10	11
連携施設	横浜医療センター	510	175	8	12	8	13
連携施設	相模原病院	458	196	8	23	18	13
連携施設	藤沢市民病院	536	234	9	18	15	6
連携施設	町田市民病院	447	140	7	12	9	4
連携施設	大和市立病院	403	164	9	10	7	1
連携施設	横須賀市立横須賀市民病院	482	210	9	8	9	6
連携施設	平塚市民病院	416	124	6	13	10	10
連携施設	横浜労災病院	850	255	12	22	22	5
連携施設	横浜南共済病院	565	246	8	28	20	11
連携施設	済生会横浜市南部病院	500	192	8	10	4	15
連携施設	大森赤十字病院	344	172	7	14	13	12
連携施設	藤沢湘南台病院	330	60	10	4	4	1
連携施設	横浜栄共済病院	430	170	7	11	10	2
連携施設	横須賀市立総合医療センター	417	178	7	13	11	8
連携施設	国際医療福祉大学熱海病院	269	107	7	9	5	8
連携施設	国際医療福祉大学三田病院	291	80	7	8	14	5
連携施設	国際医療福祉大学成田病院	642	300	10	40	32	15
連携施設	新百合ヶ丘総合病院	563	110	15	35	26	6
連携施設	さがみ林間病院	199	75	7	7	12	1
連携施設	社会福法人親善福祉協会国際親善総合病院	287	100	8	5	5	3
連携施設	医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院	669	321	15	46	29	13
連携施設	東京都立広尾病院	408	125	10	22	15	11
	研修施設合計	10, 909	4, 877	199	455	351	216

表２　各内科専門研修施設の内科 13 領域の研修の可能性

	総合内科	消化器	循環器	内分泌	代謝	腎臓	呼吸器	血液	神経	アレルギー	膠原病	感染症	救急
茅ヶ崎市立病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜市立大学附属市民総合医療センター	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
神奈川県立循環器呼吸器病センター	○	×	○	△	△	×	○	×	×	○	△	○	△
横浜医療センター	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
相模原病院	○	○	○	△	△	○	○	△	○	○	○	○	○
藤沢市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
大和市立病院	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△
横須賀市立市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	○
町田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
大森赤十字病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
平塚市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜労災病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横浜南共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
済生会横浜市南部病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○
藤沢湘南台病院	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○	△	○	○
横浜栄共済病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
横須賀市立総合医療センター	○	○	○	△	△	○	○	○	△	○	○	△	○
国際医療福祉大学熱海病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	×	△	○
国際医療福祉大学三田病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	○
国際医療福祉大学成田病院	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
新百合ヶ丘総合病院	○	○	○	△	○	○	○	○	○	△	△	△	○
さがみ林間病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
社会福祉法人親善福祉協会国際親善病院	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	○
医療法人徳洲会湘南鎌倉総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東京都立広尾病院	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	○

各研修施設での内科 13 領域における診療経験の研修可能性を 3 段階(○、△、×)に評価した。
〈○：研修できる、△：時に経験できる、×：ほとんど経験できない〉

専門研修施設群の構成要件【整備基準 25】
内科領域では、多岐にわたる疾患群を経験するための研修は必須である。茅ヶ崎市立病院内科専門研修施設群研修施設は神奈川県の医療機関から構成されている。
茅ヶ崎市立病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院である。そこでの研修は、地域における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験を研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を身につける。
連携施設、特別連携施設には、内科専攻医の多様な希望・将来性に対応し、地域医療や全人的医療を組み合わせて、急性期医療、慢性期医療及び患者の生活に根ざした地域医療を経験できることを目的に、高次機能・専門病院である横浜市立大学附属病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、神奈川県立循環器呼吸器病センター、地域基幹病院である横浜医療センター、相模原病院、藤沢市民病院、町田市民病院、大和市立病院、横須賀市立横須賀市民病院、平塚市民病院、横浜労災病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、大森赤十字病院、藤沢湘南台病院、横浜栄共済病院、横須賀市立総合医療センター、国際医療福祉大学熱海病院、新百合ヶ丘総合病院、さがみ林間病院、茅ヶ崎市立病院で構成している。
高次機能・専門病院では、高度な急性期医療、より専門的な内科診療、希少疾患を中心とした診療

経験を研修し、臨床研究や基礎的研究などの学術活動の素養を身につける。
地域基幹病院では、茅ヶ崎市立病院と異なる環境で、地域の第一線における中核的な医療機関の果たす役割を中心とした診療経験をより深く研修する。また、臨床研究や症例報告などの学術活動の素養を積み重ねる。
地域医療密着型病院では、地域に根ざした医療、地域包括ケア、在宅医療などを中心とした診療経験を研修する。

専門研修施設（連携施設・特別連携施設）の選択
·専攻医 2 年目の秋に専攻医の希望・将来像、研修達成度及びメディカルスタッフによる内科専門研修評価などを基に、研修施設を調整し決定する。
·病歴提出を終えた専攻医 3 年目の 1 年間、連携施設・特別連携施設で研修をする（P20 図 2)。

なお、カリキュラムの知識、技術・技能を修得したと認められた専攻医には積極的に Subspecialty 領域専門医取得に向けた知識、技術・技能研修も可能である（個々人により異なる)。内科専門研修開始時に将来の subspecialty 領域をある程度決めておくことを検討しておくことが望まれる。

専門研修施設群の地理的範囲【整備基準 26】
神奈川県湘南東部医療圏と近隣医療圏にある施設から構成している。いずれも茅ヶ崎市立病院から電車を利用して、1 時間程度の移動時間であり、移動や連携に支障をきたす可能性は低いと思われる。

専門研修基幹施設
茅ヶ崎市立病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	· 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 · 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 · 茅ヶ崎市非常勤医師として労務環境が保障されています。 · メンタルストレスに適切に対処する部署（職員課健康衛生担当）があります。 · ハラスメント対策委員会が茅ヶ崎市役所に整備されています。 · 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 · 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2） 専門研修プログラムの環境	· 指導医が 15 名在籍しています（下記)。 · 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 · 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2022 年度実績　医療倫理　1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 · 研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 · CPC を定期的に開催（2022 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 · 地域参加型のカンファレンス（2022 年度実績　茅ヶ崎内科医会症例検討会 3 回、救急症例検討会 3 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	· 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 6 演題）を予定しています。

指導責任者	中戸川　知頼 【内科専攻医へのメッセージ】 　茅ヶ崎市立病院は神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、茅ヶ崎市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　15 名、日本内科学会総合内科専門医　14 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌･代謝専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 3 名、日本透析医学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　18,206 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　8,372 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本神経学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

専門研修連携施設

1 横浜市立大学附属病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデント we 指導診療医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 81 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 3 回、

	医療安全 129 回、感染対策 32 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 24 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 21 演題）をしています。
指導責任者	前田　愼 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 81 名、日本内科学会総合内科専門医 49 名 日本消化器病学会消化器専門医 18 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名、 日本内分泌学会専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 5 名、 日本腎臓病学会専門医 5 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 6 名、日本神経学会神経内科専門医 10 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本救急医学会救急科専門医 5 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　11、655 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　4、545 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本内分泌甲状腺外科学会認定医専門医施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本神経学会専門医研修施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本老年医学会教育研修施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会研修施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本感染症学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

2 横浜市立大学市民総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 横浜市立大学シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。

	・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が横浜市立大学に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 40 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会について集合研修や e-Learning の利用により定期開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 4 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 40 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2015 年度実績 2 演題）をしています。
指導責任者	平和　伸仁 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜市立大学は 2 つの附属病院を有し、神奈川県内の協力病院と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修修了後に大学病院の内科系診療科が協力病院と連携して、質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 40 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本感染症学会専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　40、608 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　19、878 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携を経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本救急医学会指導医指定施設 救急科専門医指定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医指導施設 日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 非血縁者間骨髄採取認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 呼吸療法専門医研修施設 日本アフェレシス学会認定施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 ＮＳＴ稼働施設 日本救急撮影技師認定機構実地研修

	施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定施設 など

3 神奈川県立循環器呼吸器病センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 神奈川県立病院機構任期付常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ 監査・コンプライアンス室が神奈川県立病院機構本部に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2） 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 14 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 11 回（各複数回開催）、感染対策 2 回（各複数回開催））し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績 呼吸器研究会 7 回、循環器研究会 10 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、循環器、呼吸器、感染症、アレルギー及び代謝の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	萩原 恵里 【内科専攻医へのメッセージ】 循環器呼吸器病センターは循環器及び呼吸器疾患の専門病院であり、連携施設として循環器、呼吸器疾患の診断と治療の基礎から、より専門的医療を研修できます。循環器に関しては急性期の虚血性疾患の対応から、慢性期の心不全の管理まで対応できます。呼吸器疾患に関しては、結核を含む感染症、肺癌など腫瘍性疾患、間質性肺疾患、気管支喘息などのアレルギー性疾患など幅広い疾患に関して全国有数の症例数を有しており、それぞれの疾患の専門家が指導できます。また専門医療のみではなく、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざせるように教育に力をいれています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 14 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本循環器学会循環器専門医 4 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）2 名、 日本感染症学会専門医 1 名、ほか
外来・入院 患者数	外来患者 6、870 名（1 ヶ月平均） 入院患者 321 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、39 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・機能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。特に循環器及び呼吸器領域においては、より高度な専門技術も習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した、地域に根ざした医療、病診・病院連携などを経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本感染症学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 など

4 独立行政法人国立病院機構相模原病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国立病院機構のシニアレジデントとして労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する窓口がある。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 内科指導医が 24 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催している （2014 年度実績医療倫理に関しては研究センター主導で CITI Japan の受講を促し、倫理委員会についても月一回程度定期的に行っている。医療安全講習、感染対策に関しても年 2 回以上の開催をしている)。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2014 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、呼吸器、神経内科、アレルギー、膠原病の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、総合内科に関しては専門各科が協力し応需をしており、内科研修内に経験可能である。 感染症については、症例は十分数存在し、また救急部はないが一般二次内科救急を輪番で経験することにより、これらの分野に対する研鑽を積むことが可能である。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2014 年度実績 3演題）をしている。
指導責任者	責任者：森田有紀子 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、相模原地域の第三番目の規模の二次救急病院であり、地域支援病院として同地域の診療を支える一方で、免疫異常（リウマチ、アレルギー）の我が国の基幹施設として臨床研究センターを併設した高度専門施設としての役割が期待されています。 それらの事情から、当施設において総合内科専門医を教育、輩出し、またサブスペシャリティの専門領域の研鑽を積むことができる施設として、内科教育の場を提供し、優れた臨床医の育成に努めています。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 24 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名、 日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、 日本神経学会神経内科専門医 4 名、日本透析学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医（内科）8 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、 ほか
外来・入院 患者数	外来患者　　6847名（1ヶ月平均） 入院患者　　477名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群、200 症例のうち、189 症例を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設日本肝臓学会認定施設 日本内科学会認定専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設日本神経学会専門医認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 など

5 横浜医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国立病院機構横浜医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（厚生係担当）があります。 ・セクハラスメント苦情に対して管理課長が窓口となり幹部会議に図られています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 12 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しました ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 30 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　横浜藤沢消化器疾患研究会 5 回、横浜市南西部 CKD 病診連携研究会 1 回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 8 体、2014 年度 13 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）を予定しています。
指導責任者	井畑　淳 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構横浜医療センターは神奈川県横浜市南西部医療圏の中心的な急性期病院であり、内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行うと同時に横浜市立大学附属病院及び附属市民総合医療センター、東京女子医科大学病院、茅ヶ崎市立病院、横浜南共済病院、済生会横浜市南部病院、国立病院機構東京医療センター及び災害医療センターを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　12 名、日本内科学会総合内科専門医　8 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌・代謝専門医 2 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本透析医学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　5、619 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　386 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 ICD/両心室ペーシング植え込み認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 ステントグラフト実施施設、 日本呼吸器学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本高血圧学認定研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会准教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 など

6 藤沢市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 藤沢市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が藤沢市役所に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 18 名在籍しています（下記)。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長)、プログラム管理者（診療部長)(ともに総合内科専門医かつ指導医);専門医研修プログラム準備委員会から 2017 年度中に移行予定）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（2017 年度予定）を設置します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2018 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（内科体験学習集談会、湘南地域救急医療合同カンファレンス、藤沢市内科医会循環器研究会、藤沢市内科医会呼吸器研究会、消化器病症例検討会；2015 年度実績 30 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2015 年度開催実績 1 回：受講者 10 名）

	を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センター（2017 年度予定）が対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・ 専門研修に必要な剖検（2016 年度 8 体（2017 年 2 月 8 日現在）、2015 年度 12 体、2014 年度 6 体、2013 年度 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2015 年度実績 12 回）しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	岩瀬　滋 【内科専攻医へのメッセージ】 藤沢市民病院は、神奈川県湘南東部医療圏の中心的な急性期病院であり、湘南東部医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 18 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 4 名、 日本糖尿病学会専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 2 名、 日本神経学会神経内科専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科）3 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名、 日本救急医学会救急科専門医 4 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　　12、819 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　489 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会教育関連施設

	日本アレルギー学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本肝臓学会教育関連施設 など

7 大和市立病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 大和市常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課総務調整担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が大和市役所に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地に近接した病院の保育所と夜間院内保育室がありどちらも利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2） 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 11 名在籍しています（下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理　1 回（複数回開催)、医療安全 2 回（各複数回開催)、感染対策 3 回（各複数回開催)）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催(2015 年度実績 5 回)し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　開放病床症例検討会 4 回、大和リウマチ懇話会 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、アレルギー、膠原病、感染症、及び、救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	竹下　康代 【内科専攻医へのメッセージ】 大和市立病院は神奈川県の県央地域の中心的な急性期病院であり、茅ヶ崎市立病院を基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　11 名、日本内科学会総合内科専門医　9 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液専門医 2 名、日本アレルギー学会専門医（内科） 1 名、 日本リウマチ学会専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者	外来患者　　6、059 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　264 名（1 ヶ月平均）

数	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 など

8 横須賀市立市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）がある。 ・ ハラスメント委員会が横須賀市立市民病院に整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 敷地内に院内保育所があり、0 歳児からの保育を含め利用可能である。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 8 名在籍している（下記）。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 3 回、医療安全 11 回、感染対策 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催（2016 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2016 年度実績 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2016 年度実績　1 演題）をしている。 Subspeciality 関連学会での発表も積極的に行っていく。
指導責任者	小松　和人 【内科専攻医へのメッセージ】

	横須賀市立市民病院は、三浦横須賀地区の中核病院として、三浦半島の西南部の医療を担っています。市中病院として、内科全科に専門医が在籍し、豊富なコモンディジーズを経験することができます。また、病病連携や病診連携等を通して、地域医療を学ぶことも目的としています。 単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 8 名（うち日本内科学会総合内科専門医 8 名） 日本消化器病学会消化器専門医 1 名、　日本循環器学会循環器専門医 2 名、 日本内分泌学会専門医 1 名、　日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、　日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、 日本血液学会血液専門医 1 名、　日本神経学会神経内科専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医（内科）1 名、　日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本感染症学会専門医 1 名、　日本救急医学会救急科専門医 0 名、
外来・入院　患者数	外来患者　14、396 名（1 ヶ月平均）　入院患者　421 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、 日本消化器病学会専門医制度認定施設、 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設、 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、 日本心血管インターベンション学会研修施設、 日本呼吸器学会専門医認定施設 、 日本腎臓学会専門医研修施設、 日本透析医学会認定制度教育関連施設、 日本高血圧学会専門医認定施設、 日本血液学会専門医制度血液研修施設、 日本神経学会専門医制度認定准教育施設、 日本脳卒中学会認定研修教育施設、 日本糖尿病学会認定教育施設、 日本リウマチ学会専門医制度認定教育施設、 日本精神神経学会専門医制度研修施設、 日本がん治療認定医機構認定研修施設、 日本臨床腫瘍学会認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設、 など

9 平塚市民病院

項目名	平塚市民病院
認定基準 【整備基準 24】 1）専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 常勤医師として採用され、安定した身分保障及び労務環境が整えられています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署が平塚市役所内にあります。

	・ハラスメント委員会が平塚市役所内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、週 2 日は 24 時間利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2）専門研修プログラムの環境	・内科学会指導医が 13 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2017 年度実績　医療倫理 4 回、医療安全 11 回、感染対策 14 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を予定し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・CPC を定期的に開催（2017 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。 ・地域参加型のカンファレンス（2017 年度実績 22 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をとります。
認定基準 【整備基準 24】 3）診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、神経、感染症及び救急の分野で専門研修が可能な症例数を診療しています。 また、血液、リウマチ膠原病・アレルギーについても非常勤医師の指導の下、外来入院診療を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4）学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2017 年度実績 3 演題）をしています。
指導責任者	高木　俊介 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南西部の風光明媚な平塚市の文教地区に位置する地域中核急性期病院で、専攻医は自治体病院常勤医師として安定した身分が保証されています。 高度急性期、急性期だけでなく回復期の患者さんや多くの疾患を抱える高齢者まで、市民病院ならではの幅広い患者層を対象に多くの疾患のさまざまな時点での診療を経験することが出来ます。 平成 28 年度に新棟がオープンし、ゆったりとした外来・病棟、最新の設備を備えた救命病床や ICU/CCU、外来化学療法室・透析室・手術室、広いリハビリ室などが新棟内に設置されています。また 320 列 CT や IVR－CT などの先進機器に加えて、新棟開設に伴い最新鋭のリニアックも設置され、県指定がん連携拠点病院として高度ながん診療体制も整っています。 内科の広範な診療を支えるため、主な領域には常勤指導医がおり、また血液・リウマチ内科等は大学派遣の非常勤医師の指導を受けられます。放射線科や外科系診療科のスタ

	ッフも充実しており、救急医療に関しては、平塚市民病院救命救急センターを有し救急科専門医を中心に湘南西部地域の中心病院として高度急性期疾患にも対応しています。さまざまなカテゴリーの内科疾患を一症例ずつ丁寧にしっかりと診療できる、充実した専門医研修を目指しています。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本肝臓学会肝臓専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 2 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名 日本内分泌学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会血液専門医０名、日本神経学会神経内科専門医 2 名、 日本アレルギー学会専門医１名、日本リウマチ学会専門医０名、 日本感染症学会専門医０名、日本救急医学会救急科専門医 3 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　　18、718 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　　353 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち、かなりの領域・疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	高度急性期、急性期医療のほか、回復期やさまざまな疾患を抱えた高齢者医療、さらには高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

10　町田市民病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ･町田市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ･メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員健康推進室担当）があります。 ･「【町田市民病院職員】ハラスメント防止のためのガイドライン」に基づき、ハラスメント防止委員会を整備予定です。 ･女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ･敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2)　専門研修プログラムの環境	･指導医が 9 名在籍しています（下記）。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2019 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2019 年度実績 4 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンス（2019 年度実績　救急外来患者症例検討会 1 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、膠原病及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 1 演題）を予定しています。各 subspeciality の学会に年一回の発表を予定しています（2019 年度実績 3 演題）。
指導責任者	和泉　元喜 【内科専攻医へのメッセージ】 　町田市民病院は東京都多摩南部医療圏の中心的な急性期病院であり、横浜市大附属病院などを基幹施設とする内科専門研修プログラムの連携施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 9 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肝臓学会肝臓専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、 日本内分泌学会内分泌代謝（内科）専門医 1 名、 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名、日本透析医学会透析専門医 2 名、 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、 ほか
外来・入院　患者数	外来患者　26796 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　9726 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医認定施設 日本循環器学会専門医認定研修施設 日本アレルギー学会専門医教育研修施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本消化器内視鏡学会専門医指導施設 日本透析学会専門医教育関連施設、 日本糖尿病学会認定教育施設 など

11 独立行政法人労働者健康安全機構横浜労災病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・労働者健康安全機構嘱託職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルヘルスに適切に対処する部署（総務課）、産業医がおります。 ・ハラスメントについては、相談員（男女各 1 名）を置き、職員の相談に対応しており、必要に応じに職員相談委員会を開催する体制が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備しています。

	・敷地内に院内保育所を整備しています。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	·指導医が 37 名在籍しています。 ·医師臨床研修管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医にも受講を義務付けます。 ·CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ·地域参加型カンファレンスや各診療科の主催するカンファレンスを定期的に開催しており、専攻医に特定数以上の受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野すべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 5 演題の学会発表をしています
指導責任者	責任医師名　永瀬　肇 【内科専攻医へのメッセージ】　横浜労災病院は独立行政法人労働者健康安全機構が設置、運営する病院であり、労災疾病の診療、研究を行うとともに、横浜市北東部中核医療施設として救急診療、高度医療、がん診療、小児医療、産科医療における大きな役割を担っています。内科系のすべての領域において初診から診断、治療に至るまでの高い専門性を有する診療が行われており、また安全、倫理、感染、内科救急などの研修機会も整っています。そして、内科門研修のために何よりも重要なことは、より多くの症例を優れた指導体制の下に経験することであり、当院は専攻医が充実した専門研修ができる環境を用意しています。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　22 名、日本内科学会総合内科専門医　22 名 日本消化器病学会消化器専門医 11 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 2 名、日本内分泌学会内分泌·代謝専門医 2 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 4 名、 日本感染症学会専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 5 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 人、ほか

外来・入院患者数	外来患者　3、948 名（1 ヶ月平均） 入院患者　　562 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例をすべて経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療、最新医療、臨床研究を体験しつつ内科専門医に求められる患者中心の標準治療を習得し、地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育病院 日本糖尿病学会認定教育施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本高血圧学会専門医認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医認定教育施設（呼吸器内科） 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設など

12 国家公務員共済組合連合会横浜南共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 国家公務員共済組合連合会 横浜南共済病院の職員として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤している。 ・ 院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各１名おり、セクハラに関する相談を受け付けている。

	・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・敷地内に院内保育所が整備されている。
認定基準 【整備基準24】 2）専門研修プログラムの環境	・指導医が28名在籍している（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020年度実績　安全2回、感染対策2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2020年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2020年度実績　金沢区CPC、消化器疾患内科・外科・病理カンファレンス、神奈川県医療従事者向け緩和ケア研修会、呼吸器疾患医療連携セミナーなど各科及び複数科合同で計10回程度）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13　分野のうち、総合内科を除く、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、膠原病、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準24】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表（2019年度実績　5演題）をしている。
指導責任者	小泉晴美 【内科専攻医へのメッセージ】 　横浜南共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり内科専門研修プログラムの基幹施設として内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医28名、日本内科学会総合内科専門医20名 日本消化器病学会消化器専門医9名、日本循環器学会循環器専門医7名、 日本内分泌学会専門医1名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本腎臓病学会専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医3名、 日本血液学会血液専門医3名、日本神経学会神経内科専門医5名、 日本アレルギー学会専門医（内科）2名、日本リウマチ学会専門医6名、 日本感染症学会専門医0名、日本救急医学会救急科専門医2名、ほか
外来・入院患者数	外来患者　　12、074名（1ヶ月平均） 入院患者　　1、404。9名（1ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療･診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 ICD/両室ペーシング植え込み認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設 日本緩和医療学会専門医認定制度認定研修施設 日本認知症学会教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 など

13 済生会横浜市南部病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 済生会横浜市南部病院シニアレジデント医師として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課職員担当）があります。 ・ ハラスメント委員会が済生会横浜市南部病院に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 12 名在籍しています（下記）。 ・ 内科専門研修プログラム委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2020 年度実績　医療倫理 1 回（複数回開催)、医療安全 7 回（各複数回開催)、感染対策 11 回（各複数回開催)）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンス（2021 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催（2019 年度実績 15 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（2020 年度実績　地域連携研修会 6 回などを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・ 特別連携施設（港南台病院）の専門研修では、電話や週 1 回の済生会横浜市南部病院での面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13　分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症及び救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できま

	す ·専門研修に必要な剖検を行っています（2019 年度 15 体）
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究が可能な図書室などが整っています。 ·医療倫理委員会を設置し開催されています。 ·臨床教育センター（臨床教育センター運営委員会年 4 回）や治験事務局（治験審査委員会年 12 回）が設置されています。 ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2019 年度実績 5 演題）を予定しています。
指導責任者	杉森　一哉 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜市南部病院は横浜南部地域の基幹病院であり、急性期病院として専門的、先進的医療、救急医療における地域の中心的役割を果たしている。地域医療の充実とともに質の高い内科医の育成のため内科専門医制度プログラムの基幹施設としてまた藤沢市民病院を基幹施設とするプログラムの連携施設として内科専門研修を行います。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医　10 名、日本内科学会総合内科専門医　4 名 日本消化器病学会消化器専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医　　1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医　1 名、日本感染症学会専門医　2 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　1、012。9 名（1 日平均）　　入院患者　　449。8 名（1 日平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本アレルギー学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本透析医学会教育関連施設 日本血液学会研修施設 日本大腸肛門病学会認定施設 日本環境感染学会教育施設 日本がん治療認定医機構研修施設 日本緩和医療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本甲状腺学会専門医施設 日本心血管インタベーション学会研修施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本臨床腫瘍学会研修施設 など

14 大森赤十字病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 大森赤十字病院　常勤医師として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課）がある。

	・ハラスメント防止に対する規程及び委員会が整備されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・保育所の利用を必要とする場合は特段の配慮をする。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が 14 名在籍している（下記)。 ・ 内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績　医療倫理 0 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンス（2018 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2015 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンス（2015 年度実績　16 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を促し、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記)。 ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記)。 ･専門研修に必要な剖検（2015 年度実績 12 体、2014 年度実績 11 体、2013 年度 18 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ･倫理委員会を設置し、定期的に開催（2015 年度実績 5 回）しています。 ･臨床研究部門を設置し、臨床研究発表会や講演会を開催しています。(2015 年度実績　各 1 回）しています。 ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2015 年度実績　内科系学会 21 演題、日本内科学会 2 演題）をしています。
指導責任者	澁谷　研 【内科専攻医へのメッセージ】 大森赤十字病院は地域に密着した急性期病院で、近隣の施設と連携した内科専門研修を行います。いわゆる common disease はもちろん、重篤な疾患でも地域で治療を完結できるようにレベルの高い診療を目指しております。当院の特徴として他職種とのチーム医療を基本としており、医師はじめ多くのスタッフでチーム大森を形成しています。私たちは、専攻医の皆様が、「将来当院で研修を行ったことを自慢できるような病院」を目指して日々研鑽を積んでいます。是非、私たちのチームの一員になってともに学んでいきましょう。

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医　14 名、日本内科学会総合内科専門医　13 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本肝臓学会専門医 1 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名、超音波医学会専門医 1 名、 日本循環器学会循環器専門医 3 名、日本心血管インターベンション学会専門医 1 名、 日本老年医学会認定専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本血液学会専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 3 名、 日本透析医学会専門医 3 名、日本高血圧学会高血圧専門医 1 名、日本神経学会専門医 6 名、日本頭痛学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 16、922 名（1 ヶ月平均）　入院患者 9、553 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本神経学会教育施設 日本老年医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本透析医学会教育関連施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 など

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化管学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本透析医学会認定医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本医学放射線学会放射線科専門医修練施設 日本 IVR 学会専門医修練施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳神経学会専門医研修施設 厚生労働省指定臨床研修病院 など

15 藤沢湘南台病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹研修指定病院　030861 ・藤沢湘南台病院常勤医としての労務環境が保証されています ・研修に必要な図書室と院内インターネット環境があります ・健康管理部（健診は、同一法人ライフメディカル健診プラザ病院より徒歩 8 分）があります　ストレスチェックを毎年実施　また労働安全衛生委員会があり、職場環境の改善維持確認を行っています ・ハラスメント委員会設置されています ・女医専用の部屋　当直室、シャワー等があります ・病院専用の保育室が院外にあります。病院より徒歩 3 分
認定基準 【整備基準 24】 2)　専門研修プログラムの環境	・指導医 4 名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置される臨床研修委員会と連携します ・研修群の合同カンファレンスには出席を義務付けそのための時間的余裕も与えます ・CPC を毎年開催しております。専攻医受講を義務付けそのための時間的余裕も与えます ・定期的に行われる医療安全講習・感染対策講習に出席を義務としてそのための時間的余裕も与えます ・内科系倫理委員会の時にできるだけ出席をお願いして、そのための時間的余裕も与

	えます ・内科領域 13 分野のうち専門研修が可能な症例数を診療しています
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	13 領域にて専門研修が可能な症例数を診察します 2022 年内科系剖検数 2 体 2023 年内科系剖検数 1 体
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	内科学会講演会あるいは同地方会に年間で 1 題以上の学会発表を行います
指導責任者	龍　信太郎 湘南東部医療圏で藤沢市北部に位置しております。藤沢市北部、綾瀬市、大和市、横浜市泉区の患者を中心に地域医療の充実とともに内科医の育成のため、プログラム連携して内科専門医研修を行います。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科指導医 4 名 日本消化器病学会消化器指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会指導医 1 名 日本内科学会総合内科専門医 4 名 日本内科学会内科専門医 2 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名 日本炎症性腸疾患学会専門医 1 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 1 名 日本内分泌学会 1 名 日本肝臓学会専門医 1 名
外来・入院　患者数	**外来年間延数　36669 人（1 日平均 125 人）** **入院年間延数　19984 人（1 日平均 55 人）**
経験できる疾患群	稀な疾患を除いて研修手帳にある 13 領域の症例を経験することができます。特に消化器、循環器の疾患に力を入れております。
経験できる技術・技能	必要な技術、技能を実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期医療をはじめ回復期リハビリテーション病棟、医療療養病棟、緩和ケア病棟とさまざまな機能を有しております。地域の皆様にお役に立つための病診連携を経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本大腸肛門病学会専門医修練施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション学会認定研修施設 CVIT 研修施設群連携施設 日本がん治療認定医機構認定教育施 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設認定証 日本炎症性腸疾患学会指導施設

16 横浜栄共済病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･国家公務員共済組合連合会 横浜栄共済病院の職員として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する医師（産業医）が常勤しています. ･院内にセクシャルハラスメント相談員が男女各 1 名おり、セクハラに関する相談を受け付けています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	･指導医は 11 名在籍しています（下記）. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長），プログラム管理者（ともに内科指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター（仮称：2023 年度以降開設予定）を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2022 年度開催予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 2 回(COVID-19 影響)）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンス（基幹施設：循環器症例検討会，心不全医療連携研究会，糖尿病内分泌談話会，腎疾患地域談話会、呼吸器懇話会，消化器疾患地域談話会，救急症例検討会；2021 年度実績 14 回）を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回：受講者 6 名）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ･70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ･専門研修に必要な剖検（2021 年度 2 体(COVID-19 影響)）を行っています.
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･臨床研究に必要な図書室，写真室などを整備しています. ･倫理委員会を設置し，定期的に開催（2021 年度実績 12 回）しています. ･治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2021 年度実績 12 回）しています. ･日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2021 年度実績 4 演題）をしています.
指導責任者	岩城　卓 【内科専攻医へのメッセージ】 横浜栄共済病院は神奈川県の横浜南部医療圏の急性期病院であり、協力病院と連携して内科専門研修を行い、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を行います。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで、医療安全を重視しつつ、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医を目指します.

指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 11 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本内分泌学会専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本腎臓病学会専門医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、 日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　6,147 名　（1 ヶ月平均）　　入院患者　4,342 名　（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本高血圧学会認定施設 日本動脈硬化学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本呼吸器学会専門医認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本透析医学会認定教育関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 腹部ステントグラフト実施施設 胸部ステントグラフト実施施設 日本リウマチ学会教育施設認定 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関認定 日本認知症学会教育施設 日本病理学会研修登録施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 など

17 横須賀市立総合医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・当院専攻医として労務環境が保証されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する健康管理室があります。 ・ハラスメント委員会が当院に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含めて利用可能です。

認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 13 名在籍しています。(2021 年度) ・初期および専門医研修管理委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2021 年度実績　医療倫理 1 回、医療安全 1 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2021 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2021 年実績 5 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2021 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域のうち、総合内科、呼吸器、消化器、循環器、膠原病および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2021 年度実績 3 演題）をしています。 ・臨床研究に必要な図書室、電子ジャーナル等を整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的（2021 年実績 12 回）を開催しています。
指導責任者	・岩澤　孝昌 【内科専攻医へのメッセージ】 横須賀市立総合医療センターは地域医療機関や救急隊との良好な連携により効率の良い入院治療に重点を置いた高次医療を提供しています。また、人材の育成や地域寮の充実に向けて様々な活動を行っています。本プログラムは初期臨床研修終了後に質の高い内科医を育成するものです。また単に内科医を養成するだけでなく、医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、日本の医療を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 13 名、日本内科学会総合内科専門医 11 名 日本消化器病学会消化器科専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器科専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 6 名、ほか
外来・入院　患者数	外来患者　444.0 名（1 ヶ月平均）　　入院患者　274.8 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根差した医療、病診連携なども経験できます。

学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度関連認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本環境感染学会認定教育施設 日本脈管学会認定研修指定施設 日本病院総合医診療学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設　、ほか

18 国際医療福祉大学熱海病院

認定基準 【整備基準 23】 1）専門医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・国際医療福祉大学の職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（安全衛生委員会）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内託児室があり、夜間保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2）専門研修プログラムの環境	･内科指導医が 8 名在籍しています（下記)。 ･内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設 に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2015 年度実績 医療倫理 2 回、 医療安全 6 回，感染対策 3 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を 与えます。 ･研修施設群合同カンファレンス（2017 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義 務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ･CPC を定期的に開催（2021 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための 時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち，血液を除く、総合内科，消化器，循環器、 内分泌，代謝，腎臓，呼吸器、神経，アレルギー、膠原病、感染症および救

3）診療経験の環境	急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4）学会活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等学会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	山田佳彦（糖尿病・代謝・内分泌内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学は 5 つの附属病院を有し、それぞれの地域で人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。新しい専門医制度の内容に即して初期臨床 研修修了後に院内内科系診療科が協力･連携するだけでなく、都市部や病院隣接の異なる医療圏での研修を通して質の高い内科医を育成するプログラムで行っていきます。また単に内科医を養成するだけでなく、全人的な医療を目指し、チーム医療・チームケアの体制のもと医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、医学の進歩に貢献し、これからの医療を担える医師を育成することを目的としています。
指導医数 （常勤日医）	日本内科学会指導医 8 名，日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本消化器病学会消化器専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 3 名， 日本内分泌学会専門医 2 名，日本糖尿病学会専門医 1 名， 日本腎臓病学会専門医 1 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， 日本救急医学会救急科専門医 2 名，＊重複取得者含む
外来・入院患者数	外来 13,841 名（2021 年度 1 ヶ月平均） 入院 5,621 名（2021 年度 1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	血液ときわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域，67 疾患群 の症例を経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳に記された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設

	日本透析医学会認定専門医制度認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会認定専門医制度関連認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本東洋医学会指定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本高血圧学会高血圧専門医認定施設 日本乳癌学会認定専門医制度認定関連施設 日本救急医学会認定救急科専門医指定施設 など

19 国際医療福祉大学三田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ･研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ･ ※三田病院常勤医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処する部署（人事課）があります. ･ハラスメント委員会が整備されています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，仮眠室，シャワー室，当直室が整備されています. ･敷地内に院内保育所があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医は 9 名在籍しています. ･内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（診療部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ･基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのため の時間的余裕を与えます. ･プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.

	·日本専門医機構による施設実地調査に対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（一部外来症例を含みます). ·70 疾患群のうち 57 疾患群について研修できます. ·専門研修に必要な剖検を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等学会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。·臨床研究に必要な図書室などを整備しています. ·倫理委員会を設置し，定期的に開催しています. ·治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています.
指導責任者	佐藤敦久 【内科専攻医へのメッセージ】 国際医療福祉大学三田病院は，東京都区中央医療圏の急性期病院であり，栃木・熱海・千葉医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します. 主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に，診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります
指導医数 （常勤日医）	日本内科学会指導医 9 名，日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本循環器学会循環器専門医 8 名，日本糖尿病学会専門医 2 名， 日本内分泌学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 4 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名，日本神経学会神経内科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者（年間実数）67,956 名 入院患者（年間実数）7,139 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，57 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術·技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます.
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます.
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設

	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設

20 国際医療福祉大学成田病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	･初期臨床制度の協力型臨床研修指定病院（予定）です. ･研修に必要な医局図書室とインターネット環境（Wi-Fi）があります. ･国際医療福祉大学成田病院勤務医師として労務環境が保障されています. ･メンタルストレスに適切に対処するため臨床心理士によるメンタルヘルス相談室を開設し ています。 ･ハラスメント委員会を設置しています. ･女性専攻医が安心して勤務できるように，休憩室，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ･院内に保育室があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が１０名、総合内科専門医が１６名在籍しています（2019 年 2 月時点）. ･内科専攻医研修委員会を設置して，施設内で研修する専攻医の研修を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります. ･医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･研修施設群合同カンファレンスに定期的に参加し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ･地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療します。 ･70 疾患群のうち 65 疾患群以上（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できます。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定しています.
指導責任者	中世古 知昭 【内科専攻医へのメッセージ】2017 年 4 月に千葉県成田市に国際医療福祉大学医学部が開設しました。国際医療福祉大学成田病院は国際医療福祉大学の 6 つ目の附属病院として，2020 年 4 月に成田市に開院致します。当院は最新医療機器と充

	実したアメニティを備え、高度急性期医療に対応するとともに，地域医療機関と連携して地域医療に貢献致します。さらに東南アジアを中心に海外とのネットワークの拠点となり、国内外の患者へ最先端の医療を提供する世界基準のハブ病院をめざします。内科系の全ての診療科で多くの指導医が揃い、他の 5 つの附属病院や関連病院とも連携して充実した内科専門研修を受けることが出来ます。当院での内科専門研修を通じて、地域連携、救急医療から、国際的視野に立つ医療まで、内科専門医として必要な技能，経験を幅広く身に着けて頂きたいと思います。
指導医数 （常勤日医）	日本内科学会指導医 10 名 総合内科専門医 16 名 日本消化器病学会専門医 4 名、日本血液学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 3 名、日本循環器学会専門医 5 名 日本神経学会専門医 3 名、日本呼吸器学会専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 2 名 日本内分泌学会専門医 1 名、日本感染症学会専門医 2 名 日本リウマチ学会専門医 1 名、日本アレルギー学会専門医 1 名 日本老年医学会専門医 1 名 ※2019 年 2 月時点
外来・入院患者数	外来患者（年間実数） 名 入院患者（年間実数） 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域（全領域），65 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術･技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、地域に密着し、超高齢社会に対応した医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本神経学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本高血圧学会教育認定施設 I 日本高血圧学会高血圧研修認定施設 I 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設

21 新百合ヶ丘総合病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	·初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です. ·研修に必要な図書室とインターネット環境があります. ·新百合ヶ丘総合病院内科研修医として労務環境が保障されています. ·メンタルストレス、ハラスメントに適切に対処する部署（総務課）があります. ·女性専攻医が安心して勤務できるように，更衣室，シャワー室，当直室が整備されています. ·病院に関連する保育施設があり，利用可能です.
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	·内科指導医は 34 名在籍しています. ·内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（消化器・肝臓病研究所所長），プログラム管理者（消化器内科部長）が，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります. ·基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します. ·医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（年計 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2023 年度から予定）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·CPC を定期的に開催（2021 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·地域参加型のカンファレンス（新百合ヶ丘病診連携の会 ; 年 2 回, 川崎北部 心臓血管病フォーラム ; 年 1 回, 新百合ヶ丘循環器フォーラム ; 年 1 回, 新百合ヶ丘イブニングカンファレンス ; 年 1 回, 新百合ヶ丘がんセミナー ; 年 1 回など）を定期的に開催していますが，専攻医に受講のための時間的余裕を与えます. ·プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（年 1 回開催を予定）を義務付け，そのための時間的余裕を与えます. ·日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修委員会が対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	·カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ·70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 56 以上の疾患群）について研修できます（上記）. ·専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体，2021 年度 6 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	·臨床研究に必要な図書室，カンファレンスルームなどを整備しています. ·研修医専用の研修医室があります. ·倫理委員会を設置し，年 1-2 回開催しています. ·治験管理室を設置しています. ·日本内科学会講演会あるいは同地方会に 2021 年度に計 2 演題の学会発表をしています．内科専攻医の内科系学会での発表数は 6 演題です。
指導責任者	篠崎　倫哉 【内科専攻医へのメッセージ】 新百合ヶ丘総合病院は，神奈川県川崎北部医療圏の中心的な急性期病院であり，近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，必要に応じた可塑性のある，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します.

	主担当医として，入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に診療します．診断・治療の流れを通じて，社会的背景・療養環境調整も包括する全人的医療を実践できる内科専門医になれるよう指導します．
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 34 名，日本内科学会総合内科専門医 26 名 日本消化器病学会専門医 11 名，日本循環器学会専門医 6 名， 日本糖尿病学会専門医 2 名，日本腎臓病学会専門医 2 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 1 名， 日本神経学会専門医 7 名，日本アレルギー学会専門医（内科）1 名， 日本内分泌学会専門医 1 名，日本老年医学会専門医 2 名，ほか
外来・入院患者数	2021 年 総外来患者 310,039 名，総入院患者 184,672 名（のべ）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本脈管学会認定研修関連施設 日本呼吸器学会関連施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本病院総合診療医学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定指導施設 日本認知症学会教育施設

22 さがみ林間病院

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・施設内に研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・適切な労働環境の保障がされています。 ・メンタルストレスに対処する部署の整備がされています。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラ	指導医が 6 名在籍しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（医療倫理 1 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。

ムの環境	・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。 ・地域参加型の症例検討会を定期的に開催しています。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	さがみ林間病院においては５つの内科系診療科があり、消化器、循環器、代謝、腎臓、神経および救急分野を中心に、幅広く診療を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会等学会発表をしています。
指導責任者	福田直人 【内科専攻医へのメッセージ】 当院における診療実績は、2022 年度内科入院患者実数は 9,000 前後、外来患者数は 12,000 前後で、199 床の小中規模の病院ながら、十分な症例数を経験し、診断、精査（合併症の評価）、治療、患者教育、療養指導についての理解を深めることが期待できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会総合内科専門医 6 名 日本透析医学会指導医 2 名 日本腎臓学会指導医 2 名 日本消化器内視鏡学会指導医 2 名，専門医 3 名 日本消化器病学会指導医 1 名，専門医 4 名 日本肝臓学会指導医 1 名 日本消化管学会（胃腸科）指導医 1 名 日本循環器学会指導医 4 名 日本心血管インターベンション治療学会専門医 1 名、認定医 2 名 日本不整脈心電学会専門医 1 名 日本外科学会指導医 1 名、専門医 1 名 日本整形外科学会指導医 1 名、専門医 7 名 日本泌尿器科学会指導医 1 名、専門医 2 名 日本麻酔科学会指導医 2 名、専門医 1 名 日本眼科学会専門医 1 名 日本口腔外科学会指導医 1 名 日本がん治療認定医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 10,000 名（1 ヶ月平均） 入院患者 750 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます.
経験できる技術・技能	研修手帳の一部の疾患を除き、多数の通院・入院患者に発生した 疾患を中心に、幅広く経験することが可能です。
経験できる地域医療・診療連携	技術・技能評価手帳に記された内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院

23 社会福祉法人親善福祉協会　国際親善病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・ 社会福祉法人の病院常勤医として労務環境が保障されている。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室、職員課）ががあり、常勤産業医によるストレスチェックおよびストレス相談（随時）、精神科非常勤医による専門外来が月 1 回ある。 ・ セクハラスメント苦情受付担当が、各部署および病院管理部門に配置されており管理部長が統括して対策をとる体制が整備されている。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ・ 隣接する同一法人敷地内に院内保育所があり利用可能である。20 時までの時間外保育が可能であり、火曜と金曜日には 24 時間保育を行っている。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・ 指導医が 10 名在籍している（下記）。 ・ 常設の研修管理委員会内に専門医研修を扱う小委員会を設置する予定である（2017 年度）。内科系の部長全員で内科専攻医研修委員会を設置して毎月一回以上の定例会を通じて，施設内で研修する内科専攻医の研修全体を管理し，基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・救急蘇生に関して日本救急医学会の ICLS コースおよび AHA-BLS コースを定期的に開催している。また、JMECC についても定期的に開催し、専攻医には受講を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・ 研修施設群合同カンファレンスに定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、腎臓、呼吸 器、神経、内分泌、代謝、感染、アレルギー、および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表を予定している。
指導責任者	清水誠　（副院長） 【内科専攻医へのメッセージ】 国際親善総合病院は泉区にある唯一の急性期地域中核病院として、この地域の医療の入り口および大黒柱としての機能を担っています。地域の開業医等の医療機関と密接に連携し、救急分野、がん関連分野、心血管生活習慣病分野、などを重点に総合

	病院としての機能を果たしていきます。専攻医の皆さんには専門科にとらわれない研修ができるように配慮します。外来や救急、当直などで受け持った患者を退院まで診ることにより、幅広い疾患を経験するとともに、中規模病院のメリットを生かし指導医間で連絡をとりあい、専攻医のニーズに応じた疾患がタイムリーに経験できるような体制をとります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名 日本消化器病学会消化器専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、日本透析医学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 4 名、日本プライマリーケア学会認定指導医 3 名
外来・入院患者数	外来患者 4974 名（1 ヶ月平均） 入院患者 2995 名（1 ヶ月平均延数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例すべてを経験できる可能性がありますが、当院では一部の疾患（血液内科、膠原病）については担当科がないため不十分になることもありえます。緩和ケア内科(緩和ケア病棟)が 2016 年度からスタートし、今まで以上に（総合内科 I （一般）、総合内科Ⅲ（腫瘍））について幅広い経験ができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。 終末期ケア、緩和ケア、廃用症候群のケア、嚥下障害を含めた栄養管理、リハビリテーションに関する技術・技能についても指導医の指導のほかパラメディカル（専門看護師、認定看護師、NST チーム、呼吸ケアチーム、理学療法士、言語療法士、作業療法士、社会福祉士ほか）とともに病棟でチーム医療を実践できます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療について、地域医療連携部（看護師専従 2 名、社会福祉士 4、事務員 5 名）とともに様々な形の病診・病病連携などを経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本消化器病学会認定制度認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定制度教育関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本病理学会研修認定施設 B 日本心身医学会認定医制度研修診療施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本静脈経腸栄養学会実施修練認定教育施設 日本静脈経腸栄養学会 NST 稼働施設 日本心血管インターベンション学会研修関連施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

	日本脳ドック学会認定脳ドック施設

24 医療法人徳洲会湘南鎌倉総合

認定基準 【整備基準 23】 1)専攻医の環境	・669 床の初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・「JCI」（米国の国際医療機能評価機関）認定病院、「JMIP」（外国人患者受入れに関する認定制度）認証病院である。 ・研修に必要な図書室とインターネット・Wi-Fi 環境がある。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課、臨床心理室）がある。 ・ハラスメント委員会が院内に整備され、月一回開催されている。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備され、HOSPIRATE 認証病院となっている。 ・敷地内に院内保育所（24 時間・365 日運営）があり、利用可能である。 ※「JCI」とは・・・米国の医療施設を対象とした第三者評価機関 Joint Commission（元 JCAHO：1951 年設立）の国際部門として 1994 年に設立された、国際非営利団体 Joint Commission International の略称である。世界 70 カ国 700 の医療施設が JCI の認証を取得している。JCI のミッションは、継続的に教育やコンサルテーションサービスや国際認証･証明の提供を通じて、国際社会における医療の安全性と品質を向上させることである。 ※「JMIP」とは・・・Japan Medical Service Accreditation for International Patients の略称であり、日本語での名称は外国人患者受入れ医療機関認証制度となる。厚生労働省が「外国人の方々が安心・安全に日本の医療サービスを享受できる ように」、外国人患者の円滑な受け入れを推進する国の事業の一環として策定し、一般社団法人日本医療教育財団が医療機関の外国人受け入れ体制を中立・公平 な立場で評価する認証制度である。 ※「HOSPIRATE 認証病院」とは・・・この評価認定は、働く職員にとって、ワークライフバランスを病院側がどのように工夫し、「働きやすい環境」を整備しているかを第三者側から評価するものである。
認定基準 【整備基準 23】 2)専門研修プログラムの環境	･指導医が 46 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会；専門医研修プログラム委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図る。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センター／内科専門研修センターを設置する。 ・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・CPC を定期的に開催（2024 年度実績 11 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医には受講を原則的に義務付け、そのための時間的余裕を与える。

	・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2024 年度開催実績 1 回、受講者 11 名）を義務付けそのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査に臨床研修センターが対応する。 ・英国人医師による問診聴取や身体所見の取り方を研修するとともに、英語によるコミュニケーション能力を向上させる。 ・特別連携施設の専門研修では、電話やインターネットを通じて月 1 回の湘南鎌倉総合病院での面談・カンファレンスにより、指導医がその施設での研修指導を行う。
認定基準 【整備基準 23/31】 3)診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくても 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療している。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくても 35 以上の疾患群）について研修できる。 ・専門研修に必要な剖検（2024 年度実績 13 体）を行っている。
認定基準 【整備基準 23】 4)学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備している。UpToDate、今日の臨床サポートの医療検索ツールも充実しており、Mobile を用いた検索も全内科医師が可能な環境である。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2024 年度実績 24 回　内訳；徳洲会全体 12 回、院内 12 回）している。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2024年度実績12回）している。再生医療のための特定認定再生医療等審査委員会も設置されCPC（cell processing center)が用意され今後の展開が可能。 ・臨床研究センターが設置されており、症例報告のみならず臨床研究への積極的な参画を推進する。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会での学会発表（2023 年度実績 3 演題）をしている。
指導責任者	小泉一也 【内科専攻医へのメッセージ】 湘南鎌倉総合病院は、神奈川県横須賀・三浦医療圏の中心的な急性期病院であり、神奈川県横須賀・三浦・湘南医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 内科領域全般の診療能力として、知識や技能に偏らずに、患者に人間性をもって接すると同時に、医師としてのプロフェッショナリズムとリサーチマインドの素養をも修得して可塑性が高く様々な環境下で全人的な内科医療を実践します。内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験してゆくことによって、内科の基礎的診療を繰り返して学ぶとともに、疾患や病態に特異的な診療技術や患者の抱える多様な背景に配慮することを経験します。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察をふくめて記載し、複数の指導医による指導をうけることによってリサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能

	力を涵養することが可能となります。主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 46 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名、日本循環器学会循環器専門医 22 名、 日本病学会専門医 2 名、日本腎臓学会専門医 10 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 5 名、日本血液学会血液専門医名 5 名、 日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本リウマチ学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 2 名、日本肝臓学会肝臓専門医 10 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 9 名、日本臨床腫瘍学会専門医 3 名 日本感染症学会専門医数 1 名
外来・入院患者数 (年間)	外来患者　560,003 名　新入院患者　24,700 名（2024 年度実績）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、訪問診療も行っており、また福祉施設などの関連施設も持ち緩和ケアや超高齢社会に対応した医療も行っており、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院、日本消化器病学会認定施設、日本循環器学会認定循環器専門医研修施設、日本呼吸器学会認定施設、日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会研修施設、日本リウマチ学会教育施設、日本透析医学会専門医制度認定施設、日本神経学会教育関連施設、日本救急医学会救急科専門医認定施設、日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設、日本消化器内視鏡学会指導施設、日本がん治療認定医機構認定研修施設、日本高血圧学会専門医認定施設、日本病態栄養学会認定施設、日本急性血液浄化学会認定施設、日本アフェレシス学会認定施設、日本脳卒中学会専門医認定研修教育病院、日本脳神経血管内治療学会専門医制度研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設、日本認知症学会教育施設認定、日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設、日本肝臓学会認定施設、日本胆道学会認定指導施設、日本消化管学会胃腸科指導施設

25 東京都立広尾病院

認定基準 【整備基準 24】 1)専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院である。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境がある。 ・東京都非常勤医員として労務環境が保証されている。 ・ メンタルヘルスに適切に対処する署がある。（総務課担当職員） ・ ハラスメント委員会が東京都庁に整備されている。

	・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されている。 ･病院の建て替えに伴い院内保育所が現在休止している。
認定基準 【整備基準 24】 2)専門研修プログラムの環境	・指導医が１５名在籍している。 ・内科専門研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図る。 ・医療倫理（１回）・医療安全（１１回）・感染対策（２回）講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（４回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（２０２４年度：１回開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与える。 ・日本専門医機構による施設実施調査にプログラム管理委員会が対応する。
認定基準 【整備基準 24】 3)診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域１３分野のうち、膠原病を除く、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、呼吸器、血液、神経、アレルギー、感染症および救急の分野で定常定期に専門研修が可能な症例数を診療している。 また、剖検例についても定常的に専門研修が可能である。
認定基準 【整備基準 24】 4)学術活動の環境	･日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表を予定している。 ･内科学会の発表総数は５２演題。卒後３～６年目の内科専門研修（旧制度）中の医師が筆頭の演題は１３演目。
指導責任者	田島　真人　（腎臓内科部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 広尾病院は東京都区西南部医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設として内科専門研修を行い、内科専門医の育成を行います。また東京都に二つある基幹災害拠点病院のひとつでもあり、災害に係る研修も可能です。さらに東京都島嶼部（大島、八丈島をはじめとする島々）の後方支援病院であり、島嶼医療に関わる研修を行うことも可能です。また 2023 年度より病院総合診療科が新設され、同科の研修を行うことも可能です。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 22 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、日本消化器内視鏡学会認定専門医 5 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 6 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名、日本腎臓病学会専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝内科専門医 3 名、 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名、（2024 年度末時点）
外来・入院患者数	外来患者 47,690 名　入院患者 2,960 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、連携施設と協力し研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、高齢者医療に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携、東京都島嶼部の後方病院として島嶼部医療機関との連携も経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本神経学会准教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インタベーション治療学会研修施設 日本不整脈学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器病学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設 日本救急医学会指導医専門医指定施設　ほか